

ご挨拶

- ① 出身地
- ② 研究内容
- ③ 趣味
- ④ 好きな言葉



就任のご挨拶

飯田 幸治

大学病院 てんかんセンター 教授

*協力講座名「てんかん学」

- ① 広島県
- ② 難治性てんかんに対する電磁気生理学的焦点診断・外科治療、頭蓋内脳波を用いた脳内ネットワーク解明
- ③ 魚釣り、歴史探訪
- ④ 疾風に勁草を知る

令和5年2月1日付けで、広島大学病院 てんかんセンター 教授に就任いたしました飯田 幸治と申します。

私は平成2年に広島大学 医学部卒業後、広島大学 脳神経外科に入局し、大学院在籍中の平成6年からてんかん外科治療部門の立ち上げに参画しました。「通常の方法では焦点特定が困難な難治性てんかんに対する新たな焦点検索法と新規外科治療法の開発」をテーマとして、モントリオール神経研究所およびトロント小児病院での研究留学後も、継続して広島大学で研究と臨床に従事してまいりました。てんかんの外科治療はこの10年で目まぐるしい発展を遂げてきており、私自身も先進技術の臨床応用や、ロボット支援下新規頭蓋内電極設置術の導入など、最前線で働くことができました。

今後は微力ながら、広島大学のさらなる発展に貢献できるよう、診療・研究・教育に誠心誠意尽力してまいります。皆さま方のご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒お願い申し上げます。



伝統ある医療薬剤学研究室を主宰するにあたって

内田 康雄

大学院医系科学研究科 医療薬剤学 教授

- ① 栃木県
- ② 最先端のオミクス技術を用いて中枢関門の仕組みを解き明かし、中枢疾患創薬の突破口を拓く
- ③ 子供との時間、おいしいものを食べること、プレゼント選び、ワイン、カラオケ
- ④ 人間万事塞翁が馬

2023年4月より、高野 幹久先生の後任として広島大学 大学院医系科学研究科 医療薬剤学研究室を主宰させていただくことになりました。大変に著名な先生の後任として研究室を引き継がせていただく機会を与えていただき、身の引き締まる思いがいたします。私は、薬剤学をベースとして、次世代型定量プロテオミクスやシステムズ生物学・薬理学を取り入れながら、次の世代の薬剤学(分子システムズ薬剤学)の構築に向けて、微力ながら研究に精進する所存です。特に、中枢疾患の創薬・治療を目標に、ヒトレベルで、血液脳関門をはじめとする4種の中枢関門(血液脳関門、血液クモ膜関門、血液脳脊髄液関門、血液脊髄関門)の物質輸送機構の解明や、これら中枢関門の病態分子機構を標的とした中枢関門創薬の実現を目指しております。若輩者ではございますが、広島大学の研究・教育・運営に微力ながら貢献させていただければ幸いです。よろしくお願ひ申し上げます。